

あいりすミステイリア  
～少女達の秘跡と仮面  
の軌跡～

Krescent

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

とある事情で世界から

弾き出された少年が流れ着いたのは

世界樹と呼ばれる巨大な樹が見守る世界。

そこでとある神官の少女と出会った彼は

彼女と共に冥界にある学園へと入学する事になった。

通う者たちは皆、種子と呼ばれる力を

身体に秘めた《アイリス》という。

これはそんな少女達と笑い、泣き、戦い、イチャつき!?

成長していく少年の物語である。

※主人公の設定を練り直した為  
あらすじを変更しました。

# 目次

森の中の小さなadventure

51

本編を始める前にこの銀河の状況を

(星辰瞬く夜)理解する必要がある。少し

長くなるぞ……(中略)(5時間後)つま

り……ゴハッ!(突然の尊死) | 57

「去年に投稿した1周年記念小説にま

な板とアナちゃんがいただろ?」「何が言

いたい?」「ズバリ次に仲間になるのはガ

ルガンチュアだ!間違いない!」「いやそ

のりくつはおかしい。」 | 62

俺と彼女とドライブ | 68

A. I. R. S. P. A. R. T. Y!!

冥・界・学・園 | 1

見よ!これが《アイリス》26の秘密だ

! | 7

1st anniversary. ア

イリスフェスティバル!冥王の屍を越え

てゆけ! | 27

第1章「聖印を抱きjumping!!」

幻のnightmare | 35

芽吹きのBeginning Day

| 42

何故ウサギは捕まったのか? | 47

A. I. R. S. P. A. R. T. Y!!  
冥・界・学・園

拜啓 桜も散る頃になり

随分と過ごしやすくなりました。

お父さん、お母さん、お変わりありませんか。

こんな場所異世界から届く筈がないと

分かって居るのですが

近況の整理も兼ねて

こうして筆をとらせていただきました。

連絡も出来ずにごめんなさい。

今、不肖の息子は死後の魂が集まる

冥界という場所で楽しい楽しい

学園生活を送っております。

え？何を言っているか分からない？

安心して下さい。自分もです。

それでも、健やかで笑顔が絶えない毎日を

ちみっこ魔術師

「いやーーーーー!!!」

今日は授業に出ない!!

今日は昼寝するって決めてんだからーーーーー!!!」

白銀の忠騎士

「待ちなさい！シルバーダンデライオーーーーン!!!」

年齢気にする系ダークエルフ

「あらあら、今日も元氣ですね。」

アイドル（笑）ヒーラー

「そんな事言ってる場合じゃないとクルちゃん思うのですが!？」

「ってわあーーーー何か飛んできた!？」

禁忌という言葉に何かを感じる聖神官

「邪念撲滅!!邪念☆撲滅!!」

皆の笑顔の為に系女子

「笑顔の為に今日も頑張っちゃいます!!」

幼妻系ハイエルフ

「旦那様♡物憂げに書き物をする姿も素敵です♡」  
楽しく

ドM傭兵

「さあさあ！もつとだ！もつと打ち込んで来なよ!!」  
暗黒星雲並の胃袋を持つちびっこ

「はい！いきます!!」「バブバブ!!」

書いた物が飛び出すロリ画伯

「うゝん、今日も可愛いですね。」

あ！後で飴ちゃんをあげましょう。」

虜にするはずが虜にされた踊り子

「さあ、ここからは私のステージよ!!」

独創的な詞を作る恋愛脳スイーツな歌姫

「La~~~~~♪」

青春に夢を見過ぎるJKヴァンピール

「激おこプリンプリン丸って何か可愛くない?」

1人で夜が眠れないドワーフガンナー

「え?そうでありましょうか?」

劍聖並の太刀捌きをもつのんびり侍

「ふわ〜、ねえねえお昼寝しよ〜よ〜。」

楽しく

豊胸したい天才錬金術師（美少女）

「あら？何を書いているのかしら？」

魅惑の尻尾を持つシーフキャット

「にや？気になる。」

世界平和を真剣ガチにで願う姉姫様

「皆も一緒に！セーの、平和万歳！ですわ！」

シスコングガチ勢なボクっ娘お尻ソムリエ

「流石です！ボクがお姉様を支えますからね！」

可愛い物好きで寂しがりやな竜人

「は、は、は、ハックシユン!!」ボオツ

部屋では自然体でいる主義なレンジャーエルフ

「わ！急に火を吐かないでください!!」

ツンデレ比率2：8な元天使

「ね、ねえ……。その……。もっとアタシに構いなさいよ！」



欲望渦巻く都市の海賊女王

「いいね！いいね！楽しくなってきた!!」

ご主人様命のエレガントな駄メイド

「ぶつぶつ…これは、調教…もとい訓練が足りないのでは…ぶつぶつ…」  
楽しく  
ブルブルブル

「おめえら！さつきから五月蠅えんだよ！

手紙くらい静かに書かせろやあ!!」

K A M E N R I D E D E C A D E  
かーらの

F I N A L A T T A C K R I D E D E D E D E D E C A D E

ユグドラシル  
世界樹の化身？いいえメタの化身です。

「ちよー校舎が壊れちゃいますー!!」

冥王様ー!!止めてくださー!!い!!」

白百合の名をもつ幼女

「えへへ。みんななかよしだねえ。」

実年齢は数万歳、でも心は少年な冥王

(「今日も冥界はへい」わ”た”ー!!)

これはそんな物語。

仮面ライダーデイケイド、その瞳は何を見る？

# 見よ!これが《アイリス》26の秘密だ!

『立花・司（ツカサ・タチバナ）』

【異界の魂】

とある事情から

この世界へと迷い込んだ主人公。

迷い込む少し前に起きた出来事が原因で

生きる威力を失っていたが

偶然にもこの世界へと来た事

クリスや他のアイリス達と出会った事で

もう一度生きようと前を向く事を決めた。

生身での戦闘では主に棒術で戦うも

デイケイドに変身した後の事も考え

あらゆる武器を使いこなせるように鍛えている。

好きなライダーはデイケイド。

※名前の長いキャラを縮めて呼ぶ癖がある。

(例) パトリシア→パティ

フランチエスカ→フラン等

『冥王』

【冥界の主兼学園長】

世界を創り上げた神の1人で

世に言う音楽性の違いから12柱トゥエルフゴツドの神を抜け

自ら地下深くへと潜って冥界を創り上げ

そこで世界樹の世話をすると共に

輪廻転成を司る唯一の神となった。

冥界では一晩で海を創るなど

人知を超えた力を持つが

人間界では信仰が薄れた事により

むらびと並みの力しか出せない様になっている。

※但し不死身

好きなライダーはファイズ。

『ユー』

【世界樹の娘】

世界樹の一部に意識が宿った存在で

冥王のサポートに加え

種子の感知という重大な仕事をこなす

極めて強い魔力を持つあいミスの看板娘。

冥王には意思疎通が出来ない

植物の頃から深い愛情を抱いており

他のアイリス達には負けません!との事。

ころころ変わる喜怒哀楽の表情に

中の人の熱演もあつてNPCでありながら

人気投票第3位という大健闘をした。

好きなライダーは電王。

『アシユリー・アルヴアスティ』

【努力と信念の白騎士】

その活躍と様々な逸話から

世界にも知られており

風の如き剣戟と白銀の鎧姿から

白銀の疾風の異名を持つ。

動物好きな一面もあり

冥王が創造した犬型の生物である

ベロスのお散歩は彼女の日課である。

朝が苦手なのが玉に瑕。

好きなライダーはブレイブ。

『ベロス』

「ベロベロー・ベロベロー!!」

(訳：ヨロシク！ヨロシク！)

スキナライダーハメイオウトオナジダヨ！

『クリステイン・ケトラ』♡

【邪神に一目惚れした優等生神官】

通称クリス。

一度ひとたびスイツチが入ると

頭の中の妄想塔（最上階は推測で108階）が

機能し始め、1人妄想劇場を繰り広げる

作者の最推しキャラで

この小説のメインヒロインでもある

妄想帝国の墮神官もとい神樹教会の上級聖神官。

彼女が奏でる琴には聴いていると

何故か眠くなる不思議な力がある。

好きなライダーはイクサ。

『ソフィアレーナ・

ブロンセカ・クツカ・ヤトウクー』

【人を癒さずにはいられないダークエルフィン】

通称ソフィ。

料理やお菓子作りといった

家事が得意なダークエルフィンで

癒し系美人な見た目とは裏腹に

戦斧を軽々と振り回し

豪快に敵を叩き斬る豪力の持ち主。

放浪癖を持ち、年齢の話や

年寄り扱いをすると静かにキレる

バブバブ膝枕という必殺技を持つ。

好きなライダーはダブル。

『ラデイス』

【ちっちゃな大魔術師】

見た目幼女な自称大魔術師で

本人曰く栄養が全て頭にいったのだが

少なくとも酒を飲める年齢ではあるらしい。

サボりの常習犯であり教師にも遠慮なく

アマゾン並みに噛み付いていくスタイル。

シロというモンスターを飼っており

自分と同じくらいちんちんな師匠がいる。

好きなライダーはスペクター。

『ベアトリーチェ』

【冥王に全てを捧げるクールな召使い】

主人公である冥王が自ら創造した

「エレガント」が口癖な

召使いという名の忍者冥土で

学園の教師でもある。



家事、特に裁縫に関しては

右に出る者がいない程の腕の持ち主だが

味音痴のため料理は出来ない。

主である冥王への忠誠心が天元突破しており

傍に居るだけでスプラッシュ（意味深）らしい。

好きなライダーはカイザ。

『アユカワ・コト』♡

【東の国からやってきたのんびりサムライ】

トミクニという東の国出身で

普段は飴を舂めながら昼寝スポットを求めて

彷徨うほんわか少女だが、いざ戦闘となると

素早い動きに鋭い太刀筋、そして

勝つ為なら手段を選ばない侍と化す。

後述するヴァレリアとは特に仲が良く

彼女に危機が迫ると万象を断つ修羅となる。

生家が新社であり舞という特技を持つ。

好きなライダーはゼロノス。

『クレア・フライランドル』

【仲間を守る鉄壁の騎士（但しDM）】

見た目は知的なクールビューティだが  
戦闘となると身の丈程もある盾を使い

仲間を守る貴族軍人から傭兵となった重戦士で

『エルハイムの綱壁』という二つ名を持つが

痛みを快楽と感じてしまう性癖の持ち主。

軍人時代に人妻から駆け落ちを求められる

という逸話があるなど女性によくモテる。

寮の自室にバーカウンターを持つ。

好きなライダーは龍騎。

『パトリシア・シャンデイ』♡

【いつも笑顔な武闘家シスター】

先述したクリスの後輩で

ジョブとしてはモンク（格闘神官）にあたる。

幼い子や小さい子のお世話が得意で

自らの笑顔を絶やさずに

誰かの笑顔の為に頑張れる

青空のような広い心の持ち主。

彼女が作るドリンクやお酒は

《アイリス》達に大好評。※本人は下戸

好きなライダーはクウガ。

『フランチエスカ・フレインセニエ』

【冥王を虜にした希代の踊り子】

クリスやパトリシアが所属する

神樹教会の教皇にさえも涙を流させたという

確かな実力を持つ元プリマな踊り子で

役作りの為に歴史の授業を受け続けるなど

踊りに関しては男爵の様に常にストイック。

無意識に種子の力を使っていたからか

自らの十八番で感動しなかった

冥王を必ず虜にしてみせる!と

接している内に自らが虜になってしまった。

最近の楽しみは化粧や

お洒落を他の子に教える事。

好きなライダーは鎧武。

『ポリン・フォン・ハイルブロン』

【錬金術で貧乳克服を夢見るお嬢様】

とある目的の為に錬金術を

究めんとする貴族令嬢で

日々研究に明け暮れているが

研究者気質故に気づけば

朝日が昇っていることもしばしば。

後述するクルチャとは師弟関係を結んでおり

インドア派でありながら

意外にも水泳を得意とし

フィールドワークもお手の物。

好きなライダーはビルド。

『エルミナ』

【どこか不思議なミステリアスお姉さん】

ぼくらの！ロリコン画伯!!

以上説明終了。

というのは3割冗談で

自分が乗っても大丈夫な雲を生み出したり

簡単なながらもコピー人間を生み出すなど

4コマ忍法刀の様に描いた物が

実体化するという規格外の応用性を持つ

世界でただ1人の絵画魔術の使い手。

合言葉はイエスロリータ!ノータツチ!

※但し向こうから来た場合はその限りではない。

好きなライダーはエグゼイド。

『セシル・ライカ・

エンゲル・ベルグランド』♡

【運命の旦那様に出会ったハイエルフィン】

通称セシル。

偶然助けられた主人公にうっかり

真名を教えてしまった事から

森の掟により旦那様と結婚します!と

魂を燃やし続ける箱入りハイエルフィン。

火の中級精霊であるイフリートと

契約出来るなどシャーマンとしての

素養は高いがまだ完全に制御出来ない。

因みにイフリートとの契約条件は

火山の火口並みに熱い心を持つ事だが

本人は火が少し苦手である。

好きなライダーはゴースト。

『ティセザーレ・

ストユーカー・マチュルフカ』

【誇り高き森のエルフィン】

通称ティセ。

弓の名手といわれる

典型的なエルフィンだが

足音だけでどんな人物であるのかを

看破する超音感の持ち主であり

レンジャーとしても高い能力を持つ。

我を忘れる程にモフモフした物が好きで

後述するラウラには尻尾を触られない様に

常に警戒されており、大量のぬいぐるみがある

自室では超自然体でいる主義。

好きなライダーは伊吹鬼。

『イリーナ・ボンダルチュール』

【火力第一主義のちっちゃな義勇兵】

弾幕はパワーであります!とばかりに

武器には常に火力を求め

銃士にして機工士なドワリンで

義勇兵ながらも軍にいたからか

命令を必ず遂行するという意思と

高い忠誠心を持つてあります!ぴしっ!(敬礼)

1人で眠れない事が弱点というより悩みであり

夜は主と同じドワリンである

ファムと一緒に寝ている。

好きなライダーはG3-X。

『ファム・ファルホーフ』♡

【無垢な笑顔で鉈を振るうドワリン】

過去の経験から自給自足が得意で

食に関して特に強い執着を持ち

ついには学園の裏に畑を作ってしまった

尚、グラウンドも畑にしてしまった事がある模様。

常に天真爛漫な笑顔を振りまき。

手に入れた食材はその場で捌く。

倒したモンスターも笑顔で捌く。

たましいのきようだいでもある

バブーという子ブタとは常に一緒。

好きなライダーはアギト。

『バブー』

バブー!!バブーブ!!!

(訳：今後とも宜しく！)

好きなライダーはビースト！)

『ラウラ・ケリリ』♡



【モフモフ尻尾の野良ネコシーフ】

ハジャーズという砂漠の町の孤児院出身で

血の繋がらない大勢の弟妹達がいる

ミューリナのシーフ。

高い所と日向ぼっこが好きで

強い好奇心を持ち、よく地上を駆け回っている。

種子の力で強化された身体能力によつて

様々な場所を飛び駆ける姿はまるで疾風の様。

普通の猫とも会話が可能であり

自慢の極上モフモフ尻尾は触れた者を狂わせる

主な中毒者はアシユリーとティセ。

好きなライダ―はオーズ。

『クルチャ・アステ』♡

【ハイテンションのウサ耳ヒーラー】

常に周りからウザがられ、鬱陶しがられても

ダイヤモンド!の様なメンタルと

超ポジティブ思考で今日もアイドル活動に励む

(自称) 歌って踊れて癒せるヒーラーアイドル。

一見アホの子にみえるが医学の心得があり

特に薬草学を得意とするアイリスの保険委員で

ラビット! 故に聴力と脚力には特に自信あり。

ウザいポーズと台詞を付ける事で

ヒーリング能力が上がるという謎特技を持つ。

好きなライダーはマツハ。

『ヴァレリア・

リステイ・ド・シエルバネスク』♡

【純なコミュ強JKヴァンピール】

文武芸能と幅広い分野にて優秀な成績を修める

個人的に後輩にしたい子No. 1なヴァンピールで

コーとモリーという使い魔がいる。

貴族として生まれたものの肌に合わせて

貴族など関係無く自由に暮らしてみたい!と

人間の国に留学したという経緯を持つ。

一族の中でも上位の立場にある祖父がおり

大切に育てられたが故に世間知らずな面もあるが  
根っこの部分は素直な良い娘で

何故かJKというものに強い憧れを持つ。

好きなライダーはキバ。

『コー&amp;amp;モリー』

キー!キーキー!!

(訳:お嬢様共々宜しくお願いいたします。

好きなライダーはナイトであります。)

『シャロン・オリーヴァ』

【寂しがり屋な火山の暴君】

住んでいた山の近くの人間に「火山の暴君」

として恐れられたドラゴニアで

1000年以上を生きる古竜の父がおり

暴走時代に怒りを鎮めくたされ。と

捧げられたゴスロリ服をいたく気に入

以降愛用するようになる。

134cmという低身長ながらも暴力的な胸を

持つトランジスタグラマー。

翼はあるが飛ぶのが得意という訳でもなくくしゃみと一緒に火を吐く事もしばしばで淋しがり屋な一面もある。

好きなライダーはクローズ。

『ウイルヘルミーナ・シュヴィール』

【歌と読書にしか興味が無い天才歌姫】  
通称ウイル。

人の心を操る歌を歌えるセイレーナで

元々の才に加え種子の力で更に強化された

その歌声は千年に一度の天才に劣らない程。

本来は人魚の姿だが陸に上がる際

下半身をヒトの脚へと変える事ができ

本人は隠しているが

恋愛小説が好きなのは公然の秘密。

歌う事に関して右に出る者はいないが

作詞のセンスは

ハンドル剣または電車切り並に壊滅的。

好きなライダーはウイザード。

???

好きなライダーは剣。

「戦えない全ての人達の為に私は戦います!」

???

好きなライダーはバース。

「ごめんね♪ボクは本が大好きなんだ♪」

???

好きなライダーはバロン。

「国王って…あんまり面白いもんじゃないね。」

???

好きなライダーはカブト。

「いーい?ご飯の時間ってのは天使が

降りてくる神聖な時間なの!分かった!」

???

好きなライダーはメテオ。

「アナタの運命は私達が決めましょう♪アチヨー」

# 1st anniversary. アイリスフェスティバル!冥王の屍を越えてゆけ!

俺達《アイリス》が結成されてそろそろ1年。

その事を全員で食堂で話していると

突然冥王がダイナミック入室をかまし

こんな宣言をしたのだった。

『祝え!』

「はい?どうされましたか?冥王様?」

《あいミスが1周年だぞ!祝えと言っている!!》

「は、はいー!!」

そうして急遽として

アイリス結成1周年記念パーティーが

開かれる事になったのだった。

「みなさー!ーん!!グラスは持ちましたかー!?!」

『はい!!!!!!』

「それではいきますよー! かんぱーい!!」

『乾杯!!!!!!』

ユ一による音頭の後。

まず初めに相当練習したのであろう

クルチャとラウラの獣人アイドルユニットの

息の合ったライブから始まったこの記念パーティー。

クルチャは♡、ラウラは☆の意匠が

施されたアイドル衣装を着ており

大変可愛らしかったと思います。はい。

まさに君はスター。と言いたかったです。

『びよんびよん!!』

『尻尾はお触り禁止。』

その後は年初めの双六衣装を着た

ルージエニアとプリシラの

姉妹による大双六大会。

ルージエニアの太陽の様な



カリスマオーラは正に日光が差す如く。

プリシラの控えめなオーラは

夜を優しく照らす月光の如く。

『行こう！お姉様！』

『ふふふ、今日は逆なのね。』

それらを盛り上げたのは

自分じゃ気付けなかったお祭り好きな

一面を持つアシュリーの太鼓祭り！

それは正に心響かせるbeat!!

『ソイヤソイヤソイヤソイヤ!!!』

未来を夢見るポリンの紅茶!

リラックスした後はソフィの

旅の思い出話しで盛り上がり。

冥王ヘリベンジする為

満を辞してのフランチェスカとウイルの

ダンスと歌で気分は最高潮!

『まだまだこんなものじゃないわよ！冥王！』



そんなミラクル起き放題！

ここはフェスティバル!!

『いつくわよー！』『ザバザバシャーン！』

『夢よ、そうよこれは夢なのよ…。』（現実逃避）

「フフフ、何度も実験しましたから。」

超自然体主義のテイセと

トリガーハッピーなイリーナによる

ロビンフッド的なの当て

テイセは全て真ん中に皆中し。

イリーナは穴だらけ。

これには思わずシャロンとテイセ。パパもにつこり。

『お父様!?』『シャロン殿!?』

『フーハハハハハハ!!』

お酒を飲んでしまったセシルが

アナ様にお母様の様になりたいと絡む中

過去の遺恨を超え優しさを取り戻した

師弟がバトルを繰り広げる!!

『お母様の様な素敵なお女性になりたいです〜!!』(泣)  
『まな板〜!』VS『洗濯板〜!!』

その後はナカヨクお酒を飲んでいました。

圧倒的な嫁感を醸し出すギゼリックが酌をし。

『アタシの酒は美味いだろ。』

アイリス全員一芸に秀でた天才だ!と

冥王がべた褒めしている裏で

クリスと教皇が乾杯し。

『私は忘れてませんからね。』バチバチ

『私も忘れていませんよ。』バチバチ

コトとヴァレリアも負けじと白無垢姿で

ライバル感を押し出していくう!

『飴食べる? 食べかけだけど。』

『センパイ! 食べさせ合いっこしよ!!』

そしてエルミナとクレアが呑んだくれ。

『絵と少女が好きなんですよ〜。』(ロリ画伯)

『苦痛や逆境に萌える!』DM守護士<sup>ガード</sup>

何度転んでも逞しく生きるファムが食べまくる!

『お腹一杯になるまで食べますよ〜!!』

『バーブー!!』

冥王、世界樹の精霊、人間、獣人

ドワリン、ドラゴニア

ヴァンピール、天使が巡り合ったこの学園。

出来たのは偶然なんかじゃない。

1人1人が繋がり合った線が虹を描き

いつか、世界樹を満開にするその日まで

俺達は戦い続ける。

だから（運営）よ、止まるんじやねえぞ。

絶対に追いついてみせるからよ。キボウノハナ

---

# 第1章 「聖印を抱きjumping!!」 幻のnightmare

世界を揺るがす程の轟音がした。

その音で目を覚ました

私の目に入ってきたのは

粉々に砕けた私の大事な後輩の手甲。

(これは!? 一体何が起こっているの?)

それにこの場所は一体?)

次に私の目に映ったのは

採石場のような場所に

アイリス達の武具が散らばっていた。

汚れた甲冑と折れた剣

折れた杖と裂けたトンガリ帽子

持ち手が折れ刃先が砕けた戦斧

地に落ちたホワイトプリムと折れたクナイが

少し離れた所に転がっており。

更には折れた刀と落ちた棒付き鉾

真つ二つになつた巨大な盾

ズタズタにされたケープと扇

粉々になつた沢山のフラスコに先端が砕けた杖

千切れたキャンパスに折れた絵筆に

半分になつた炭化した杖が見えた。

(そんな・それに先程から続くこの轟音はこの先から

聞こえてくる：：ならこの惨状の原因もこの先にいる筈)

そうして先へと進む私の目に

次々と入ってくる他の仲間達の武器

落ちた矢筒と弦の切れた弓

落ちた帽子の近くにある壊れた銃に

千切れた赤いスカーフに土に塗れた銃

中身が散らばつたバッグに折れたダガー

バラバラになつた薬草鞆に折れたロッド

破れたブレザーに砕けたペンデュラム



穂先の砕けた槍

折れたハーブと落ちた額飾り。

(また轟音……これが、世界の終わり……?)

更に先へと進むと

折れた旗に割れたティアラ

それに砕けたティアラとズタズタにされた本が

重なるように落ちており

千切れた帽子に折れたサーベル

そして砕けたハンマーの近くには

白い羽根が散らばっていた。

(皆はどこに? それにツカサ君に冥王様もいない……あれ? ツカサ君って誰でしたか?)

《アイリス》達は24人の筈。

すぐ近くで爆発音が聞こえた

どうやら爆心地はすぐ近くのようなのだ。

(これは……はっ! 今は急がないと!)

冥王様……皆……どうか……無事で……)

そうしてたどり着いた

私の目に映ったのは

マゼンタ色に輝く人形ひとがたと戦い合う

黒いモヤに包まれた人形。

そしてその少し離れたところに

倒れていたのは白い粒子が立ちのぼり

消えかけているユーさんだった。

「ユーさん!?!」

「あ……クリ……ス……さん……」。

どうやら意識を保つのが

難しくなってきたらしい。

すぐに神聖魔術で治療をしようとしたのだが

「どうして……どうして!?!神聖魔術が効かない!!」

「アハハ……やっぱり……ダメ……でしたか……」。

そう言った彼女はそのまま

一枚の真っ白なカードへと姿を変えた。

その時だ。

私が来た頃から

沈黙を保っていた2つの異形が

お互いへ向けて走り出したのだ。

その拳にはマゼンタ色の光と

黒い靄を纏っており決着をつけようとしているのが容易に見てとれた。

「駄目！2人が戦ったら世界がー!!」

そして2つの拳がぶつかり合い

世界が白く染まっていった…。

ここは聖樹協会本部にある

「ハッ！ハァー！ハァー！……今のは…夢…？」

あれ？どんな夢を見たのか…思い…出せない。

でも凄く…悲しい夢だったよう…。」

その時彼女の瞳から一筋の涙が流れた。

「あれ？…どうして…涙が…」

ああ、ツカサ君、ツカサ君…会いたい。」

ごめんな。○○○○

『悪い、俺はお前の家臣にはなれない。』

『うーん、じゃあ！家臣じゃなくていいからさ！俺の相談役兼友達になってよ！それならいいでしょー！』

『ハアー。お前ってほんと物好きだよな。』

『へへーん！だって俺は、王様になる男だからね!!』

俺とお前は最初の出会いから仕組まれていたんだから。

『ハハハハハハハッ!!』

光弾を放つアナザー○○○○

□□□も◇◇◇もいなくなっちゃった。

だから…俺は……………。

ガッ!!!

『貴様?!』

『△△△△ッ!!!』

止めるしかなかった。俺が。

『なんで！なんで△△△△が!』

マスクが割れる、どうでもいい。

ベルトに罫が入る、どうでもいい。

こいつを助けられるのなら。

『なあ○○○○、人を助けるのが☆☆☆☆なんだろ？』

そうだ。最期に聞きたいことがあったんだ。

『俺もなれたかな？仮面ライダーに。』

お前の友達に。

そこで俺の意識は消えた。

今でもその時の夢を見る。

俺の世界が終わったあの時を……。

# 芽吹きのBeginning Day

『魂に賭けて、手ぶらで帰って来ることが無いように。』

その言葉と共に人間界へ来た

俺達《アイリス》は

周りに草原が広がる道の中

現地人とそれを襲うモンスターに遭遇した。

俺たち《アイリス》初実戦の相手は

国民的竜のの物語だと最弱

とある小説だと魔王級

またまたある媒体だと強キャラだったり

世界によってインフレが激しいスライムさんです。

※この世界では弱いです。

では戦闘風景を（スライムの）

dieジエストでお送りします。

スパパパーン!!

「私に、切れないものはありません。」

ピカーーー!!

「その命、天へと還しなさい。」

バリバリビリビリッ!!!!

「100万ボルトトバースト!!」

ドガーーー!!!!

「今、ダイナミック!! って言いませんでしたか!?!。」

シャキキキキッツツ!!!!

「死んでくれませんか?」

チャキッ。

「ハア…:めんどくさいなあ…:。」

ガッ!ガンツ!!ガンツ!!

「フツ。良いねえ、嫌いじゃないよ!」

ドゴツ!ゴツ!!

「私は誰かの涙を見たくないんです!」

フアさっ!

「本当の踊りを見せたげる。」

ポポポポooooooooイツ!!

「ふふふ。さあ実験を始めましょう。」

サツ!サツ!サツ!ギリイツ!!

「私の絵に、彩りを加えましょう。」

イフリート!ナウ!!

「この命、燃やします!」

ギリギリギリギリ!シユツ!!

「彼方よりて、敵を射抜く!」

バンバンバン!バンバン!!

「生きる事は素晴らしいのであります!」

サクツ!サクツ!ドガツ!

「ご飯がくくくきましたー!!」

「バブoooooooo!!」

ザンツ!ザンツ!

「見せるよ、私たちの力。」

ギリギリギリ!ドカンツ!!

「クルちゃん、参上!!」



ヒュンヒュンヒュンヒュン!

「ウエイクアップ!なんちゃって。」

ブンツ!ドスツ!!

「今の我らは負ける気がせぬ!」

♪~~~~♪~~~~♪~~~~♪~~~~

「ふう、一曲付き合ってもらおうかしら?」

カンツ!カンツ!カンツ!

「結構行ける気がする、な!」

『スララララララー~~~~~』

○○○

!!!!?!

そうしてスライム達を殲滅するも

火傷を負ってしまった行商人を

「ぴんぽろひれはれほろくん♡」と

自称癒し系アイドルが治療し。

その行商人からリングゴをお礼として貰いつつ

ルクトラ村という所へと到着した。

なんでもユーが言うには

この近くに種子があるらしい。

そうして村の広場まで来たのだが

「ここがファーストライブの会場ですね！」

と空気を読まないウサミミが特攻

その時、不思議な事が起こったわけでもなく

ネットアームがクルチャを襲う!!

# 何故ウサギは捕まったのか？

ハ井パーゼク太

「よし！少しだけ時を戻しちゃうぞ!!」

ハイパ〜クロックアツプ〜。

BGM: AKAI Traveler♪

「ふう。」

「ツカサ君！大丈夫ですか！」

「ああ、大丈夫。」

「ああ、良かった。怪我も無いみたいです。」

「心配してくれてありがとうな、クリス。」

「当然です！だってあなたは…」

「おっと。」

「むぎゅっ。」

（こ…これはツカサ君の指が唇に…！それに今は戦闘の後で少し汗が滲んでいて…

ああ、ダメダメ!! 私は聖神官! 迷える子羊を導く者! 男性の指を舐めたいだなんて! 邪念撲滅! 邪念撲滅! 邪念☆撲滅! 邪念ペロ撲滅! 邪念ペロ撲滅! 邪…ペロペロペロペロ!!!)

画面の向こうの皆、安心してくれ。

クリスはこれで平常運転である。

「それはまだ…な。」

(やべえ…女の子の唇ってすげえプルプルしてる。ってか顔を真っ赤にしてるクリスメちゃくちゃ可愛いんですけど。)

「あ…」

(指が離れてしまいました…。)

そしてお互いが赤面していたところ

少し離れたところで

他の《アイリス》達の話し声が聞こえる。

「さすがはツカサ。私が見込んだことはある。」

「クレア? 何を吹き込んだのですか?」

「いやー、ツカサに『鍛錬をつけてくれ。』と

言われたらだろ? その時にね、女の子への接し方も

「すこ〜し手解きしてあげただけさ。」

「あなたは、全く…。」

「あらあら、うふふ。」

「お〜！お兄ちゃん、大人です！」

「い〜なく、クリスさん。」

あたしもセンパイにあーいう風にされたいなあ。」

「ワタシは飴を口に入れられたいなあ。」

「わたしは旦那様の唇で…ポツ。」

「よ〜し！わたしも後でハグしちゃいます！」

「む。ツカサ、デレデレしてる。」

そんな、なんやかんやした一幕の後

俺たちはルクトラ村へと到着したのだった。

そして時は現在へと巻き戻る。

クルチャがネットアームで捕まった後

ドラゴニアであるシャロンが

現れた事ですっかり怯えてしまった

村人達に詳しい話を聞いたところ

どうやら村の近くにラビリナの集落があり

以前から悪さを働いていたのだが

先日村にある教会から

聖印を盗み出したラビリナがいたらしく

その事もあつてピリピリした空気の中

突然空気の読まないラビリナが

現れたので捕まえたそうさだ。

そこで俺達《アイリス》は

その聖印を盗んだというラビリナを見つけて

誤解を解くために村を出発したのだった。

# 森の中の小さなadventure

クルチャ捕獲事件（笑）の後

俺達は村の近くの森にあるという

ラビリナの集落に向けて移動していた。

「うえくん。さっきは散々な目にあいましたよ。」（泣）

「ま、怪我とかは無いみたいで何よりだ。」

「ほんとですよー！ツカサ君が

真つ先に助けてくれたおかげです！

ありがとうございます！ツカサ君！

「気にするな。傷を治すべきヒーラーが

1番初めに怪我をしたなんて笑えないだろ。」

「もう！ツカサ君つてば！大好きです！

今度またライブしちゃいますよ！」

そう言うとう目を潤ませていたウザカワウサ耳ヒーラーは

満面の笑顔になって俺の左腕へと抱きついてきた。

抱きつてきた瞬間、俺たちの少し後ろをパティと

一緒に歩いてきたクリスの気配が

ゴワアツ!!と増した気がした。

とそこで話を聞いていたユーが話しかけてきた。

「前々から思っていたんですけど

ツカサ君ってクルチャさんに甘くないですか？」

「そりゃもちろん！ツカサ君が

クルちゃんのアン第0号ですから！」

「ええ、本当……何ですか？」

「まあ、応援しているのは嘘じゃないさ

知ってるか？こいつの歌、そんなに悪くない。」

”ツ”カ”サ”くー”ん……。(泣)

そうして雑談をしながら

移動をしていると何やら

前方から良い香りがしてきた。

「と、話している間に

村が近づいてきたみたいだ。」



「くんくん。確かに！」

これは大好きなニンジンシチューの香り！」

《今夜はニンジンシチューかあ!!》

「ちよ！冥王様?!急に驚かせないで下さいよ!!」

そうして集落を見つけた俺達は

同じラビリナであるクルチャと

獣人であるラウラに情報収集を任せたのだった。

(d1b) 付き合ってもらうぜ、1時間だけな！

集落で手に入れた情報を3点に纏めると

1. 族長がカンカンに怒っていた事

2. 居なくなった獣人はラケルという名である事

3. そのラケルが数日前から姿を見せない事

これらの情報から

俺達はその姿を消したラケルという

ラビリナを探してもう一度

森の中を移動していたその時

「キヤアアアアアア!!」

森の奥から女性の悲鳴が聞こえたのだった。

その声を聞いた俺たち《アイリス》は

最速で最短で真っ直ぐに：一直線に!!

声が聞こえた場所まで走り出した。

(OMO) ウワアアアアアアアアアア  
!!!!!!

「来ないで—————!!!!!!」

そうして悲鳴の場所まで辿り着くと

そこにはモンスターに囲まれた少女がいた。

「あれは！女性が襲われています！」

《アイリス！全員突撃!!》

スライム如きが21人に勝てるわけないだろ!!

という訳でスキップパスを使用します。

《アクセル弁当!》

《start up》

《MUCH》

《clock up》

《ブロンブースター!!》

「付き合ってやる10秒間だけな！」

《ラタラター！ラトラター!!》

《infinity! please!》

《ジンバー！チエリー！ハハー！》

《スピー！スピー！スピード!!》

《高速化!》

《紅のスピーディージャンパー!》

戦闘終了後。

モンスター達を倒した俺たちは

助けた少女から

何故こんな森の中にいたのか

事情を聞き出したのだが

なんと彼女、聖印を盗んだという

ラケルの居場所を知っており

そこに薬や食糧を持っていくところだったのだ。

しかし彼女が言うには彼は何も盗んではいないという。

そこで俺たちはラケルにも事情を聞くために

彼女の案内で森の中を進んで行くのだった。

本編を始める前にこの銀河の状況を（星辰瞬く夜）理解する必要がある。少し長くなるぞ...（中略）（5時間後）つまり... ゴハッ！（突然の尊死）

少女（アンナというらしい）の案内で

ラケルを匿っているという森を抜けた先の

岩山の小さな洞窟に辿り着いた《アイリス》。

そこで傷つきながらも外に出ようとしていたラケルを見つけた我らが保健委員はすぐさま

『ファーストエイド!!（物理）』

と靴から出した薬品で「オヤスミー！」させた後

彼女が治療に専念している間に

村長の娘だというアンナから話を聞く事になった。

「実は... 聖印を盗んだのはモンスターなんです。」

この一言から始まった説明を要約すると

人間の村の付近で逢瀬をしていた2人。

そこでモンスターが教会内の聖印を

盗んでいくのを見たラケルは

それを追いかけて飛び出したのだが

その場面を偶然にも村人に見られてしまい

聖印を盗んだのは獣人だと誤解が

広まってしまったそうさ。

そこで俺たち《アイリス》は

モンスターが逃げ込んだという谷へ

移動を始めたのだった。

でいけい・でいけい・でいけいど〜♪

洞窟から少し離れた谷へやってきた《アイリス》。

この辺りに聖印を盗んだモンスターが

潜んでいるらしい。

クル「でもラビリナと人間の恋物語か〜。素敵だな〜。」

ユ「確かに、ロマンチックですな〜。」

クル「ねえねえツカサ君！異種族恋愛ってロマンチックじゃありません!？」

士「まあ、そうだな。」

フ「へく、意外。」

士「何が意外だ。俺の住んでいた所だと

人形との恋や野獣と姫が真実の愛を探すといった

異種間恋愛の物語が多かったからな。

俺はあまり気にしないぞ。」

（それに魔族と人間の恋... とかな。）

ク「おく！そんなツカサ君にはなんと！クルちゃんファンクラブの会員証0番をあげ  
ちやいます!!」

士「いらん。」ペシッ！

ク「あー！0番の会員証は超スペシャルなのにく!!」

その時だ。

「すらくらく。」

スライム登場!!!!!!

冥《スライム狩りじゃく!!!》

ユ「ちよ！それはマズイですって!?!」

何はともあれバトルフアイト！スタート!!

※このバトルは以下省略！されました。  
以下ダイジェストになります。

戦闘風景はあくまでイメージです。

実際の物とは異なる場合がございます。

予めご了承ください。

サイクロン！マキシマムドライブ！

ア「疾風の一撃！受けてみよ！」

タドルレガシー！

クリ「聖なる光を！」

鬼闘術、鬼火！

ク「こんこん！」

アヴァランチスラッシュ！

ラ「本気、出す！」

スプラッシュドラゴン！

士「はああああアアア！」

「勝利!!」

戦闘後、モンスターを倒した場所の



61 本編を始める前にこの銀河の状況を（星辰瞬く夜）理解する必要がある。少し長  
ぞ...（中略）（5時間後）つまり...ゴハッ！（突然の尊死）

付近を探してみると聖印と呼ばれる

変な物体が見つかった。

どうやら先程のモンスターが

聖印を盗んでいたらしい。

そうして聖印を手に入れた俺たち《アイリス》は

ラケルが匿われていた洞窟へ戻り

依頼を受けた村の人間と

その近くの集落に住んでいるラビリナ達を

呼ぶ事になったのだった。

「去年に投稿した1周年記念小説にまな板とアナちゃん  
がいただろ?」「何が言いたい?」「ズバリ次に仲間になる  
のはガルガンチュアだ!間違いない!」「いやそのりくつ  
はおかしい。」

モンスター達から聖印を取り戻した俺たち《アイリス》。

そこで取り戻した事を伝えるために早速

人間の村とラビリナの集落へ

見つけた事を報告するため

何人かの代表を連れて来ることになった。

クル「はいはい!皆さん!

クルちゃんのために集まってくれてありがとうとーう!!」

村長「急に呼び出されたのじやが、一体何事じや?」

長「うむ。」

クル「がーん!

クルちゃん、華麗にスルーされちゃった……。」「  
人間とラビリナ。

2つの村の代表達が来たので

あの2人に来てもらう事にした。

アン「お父さん!」

村長「アンナ!?どうして此処に!」

長「おお!?ラケル!」

やってきたのは

アンナとラケルの2人。

そして彼の手には聖印が握られていた。

村長「む!?その獣人の手にあるのは

聖印か!?やはり盗んだのは獣人だったのじゃな!」

長「何を言うか!?我らはそんな物盗んだりはせん!!」

しかしその聖印を見た人間達とラビリナ達が

揉め始めてしまった。

アン「みんなやめて!私達の話聞いて!」

ラケ「お願いします!!」

村長「む…むう。」

長「ふん！」

しかし、村長の娘であるアンナと

盗んだ犯人と思われていたラケルの声によつて

一旦は落ち着いたので2人から

改めて話を聞く事になった。

そこで彼女は聖印を盗んだのはモンスターであり

ラケルは犯人ではなく

聖印を取り戻そうとした事を語る。

村長「そんな話信じられんわ！アンナよ！こちらへ来なさい!!もう2度とその獣人と

会う事は許さんからな!!」

アン「待つて！お父さん！」

その時だ。

クルチャが大声をあげて彼らを止めたのだ。

クル「待つてください！

クルちゃんのお話も聞いてもらえませんか？」

そして彼女は語る。

以前は人間達と一緒に住んでいた事。

その人間達といがみ合い別の島に移住した事。

その経験から自分が人間が嫌いだった事。

そして彼女が以前住んでいた島は

自身が集落を離れている間に

海賊の手によつて誘拐もしくは皆殺しにされ

自分が最後の生き残りになってしまった事。

そして人間が暮らす島も全滅していた事を。

クル「だからクルちゃん。

もつと人間達と仲良くなつておけば良かったなと

今になつて思うんです。」

村長「む：：むう。」

アン「そんな：：。」

普段のウザさや明るさからは

想像も出来ない重い過去を持つ彼女は

だからこそ誰かを癒し、笑顔に出来る

アイドルという存在になりたいのだと言う。

クル「だからこそ、このラビリナ達も

もつと手を取り合って欲しいんです。

ううん、もつともつと恋をするべきなんです！」

ユ一「あれ？ 台本と違うような？」

そして彼女の言葉を聞いた人間とラビリナ達は

お互いが間違っていた事を謝り合い

少しずつでも交流をしていく事を誓ったのであった。

クル「それではめでたしめでたしという事で

クルちゃん、歌います!!」

少し離れた所にて

冥『ウワキツ』

ユ一「まあまあ冥王様。

終わり良ければ全て良しという事で。」

ちよんちよん。

ユ一「ちよ、冥王様!?

私の足を触らないでください!？」

67 「去年に投稿した1周年記念小説にまな板とアナちゃんがいただろ?」「何が言いた  
「ズバリ次に仲間になるのはガルガンチュアだ!間違いない!」「いやそのりくつはおかし

冥『俺は何も触っていない。』

ユー「え?」←を見る。

見下げてくごらんく。

「スラ?」

ユー「つて!モンスター!?!」

「スラスララー……!!」

スラスラのストーム!!!

冥『全員!戦闘準備!!』

クル「それでは聞いてください♡チエイス・マイ・ハート♡」

ラディ「つて続けてたんかい!?!」

## 俺と彼女とドライバー

襲ってきたモンスター達と

戦闘を始めた俺たち《アイリス》。

そしてその戦闘中に種子を宿したモンスターが

混じっている事にユーが気が付いた。

「ハッ！あの中に種子を持ったモンスターがいます!!」

という事で俺たち《アイリス》は種子を

回収する為に種子持ち、村人達の護衛

群れの掃討と手分けして戦う事になった。

ツカサ side

こいつ強いな。

流石は種子持ちといったところか。

種子を宿したモンスターと対峙するのは俺

アシユリー、パティ、ラウラ、クルチャの5人。

村人達の護衛に就いているのが



クリス、クレア、テイセ、ファム、エルミナ。

残りのメンバーがそれぞれ群れの掃討に当たっている。

あ、冥王とユーは村人M、精霊Uとして

村人達と一緒にいるからな。

「唸れ！疾風の刃」スパッ！

「全力です!!」ドゴン!!

「本気、出す！」シャキン！

「フレ〜！フレ〜！み・ん・な!!」キラーン☆

「フツ!!」バコン!!

「スラー〜!!」

確かに強いが予想より下つてところか。

そう考えて周りの様子を少しだけ見てみたのだが

遊撃隊として空からのブレスや苦無や煙幕で

ベア先生とソフィとシャロが全体を攪乱しつつ

ウィルが魅了の歌で敵を魅了したところで

イリーナとポリンとセシルが

弾丸や薬品、精霊魔術で焼き払い。

そしてまた別の所ではフランの踊りで  
敵を惹きつけ、その隙を逃さず

ヴァレリアとコトが息のあったコンビネーションで  
翻弄したところをラデイが

魔術で薙ぎ払うといった光景が繰り返されており

このままいけば勝てると思っていた次の瞬間。

”スラーーーーーー!!!”

スライムが突然大声をあげ

全身に幾何学模様が走ったと思うと

茶色い何かに覆われていったのだ。

「な……な、何ですかアレはーーーー!!」

〈冥王 side〉

《メイオウアイ、発動!》

※説明しよう!!

メイオウアイとは魔力などのエネルギーの流れを

読み取る事が出来る分析眼である!

「何か分かりましたか!?冥王様!」

どうやら体内の種子とは別に

何やら別の力が流れている事が読み取れた。

《どうやら種子とは別の力が働いているみたい》

「種子とは別の力？それは一体？」

『☆・%#○\*×/\$♪!!!』

ブウンツツ!!!ドゴーン!!!

「つてそんなことよりあの怪物と

戦っているツカサ君達がピンチです!!」

その時俯いていたクリスが顔を上げたとおもうと

ツカサ達の所へといきなり走り出した。

「ちょ!?!クリスさん!?!」

「コレが必ず必要になる筈!?!」

無事でいて… ツカサ君…!?!」

〈ツカサside〉

なんでこの世界にコイツがいる!?!

そんな驚愕を隠せなかつた俺に

このこの世界へと流れ着く直前。

友と交わした最後の会話が蘇った。

幾つもの地球が浮かぶ白き世界

新たな世界へと巻き戻る中

友はある頼み事をした

俺はそれを受け入れた

そしてこの世界へと

流れ着いた俺は彼女と出会った。

「まさかこれがアイツが言っていた…。。」

そうして考え込んでいたところ

緊迫した声が聞こえた。

「みんな！避けて！」

『☆・%#○\*×メ\$♪!!!』

ブウンツ!!!ドゴーン!!!

「キヤー!!?グルちゃんピーンチ!?」

そんな切羽詰まったラウラの言葉に我に返った

俺は前に出過ぎていたクルチャを

ギリギリのタイミングで助けた後

彼女達へと聞こえるように大声をあげ

懐から取り出したライドブツカーによる

銃撃で牽制を始めた。

「お前ら……こいつに触れられないように注意しろ！」

すると腕の中のクルチャが

こいつが何者かを聞いてきた。

「ツカサ君……こいつが何なのか知ってるんですか!？」

それにその武器? はなんですか!？」

「ああ、こいつはバグスター！」

簡単に言えば病気を引き起こすウイルスだ！

それとコイツに関しては後だ！」

「なんで、ツカサが知ってるの?」

「だから詳しい話は後あと！今はとにかく避け続ける！」

「ツカサ！避け続けるのには何か

理由があるのですか!？」

「さつきも言ったがコイツはウイルス！」

触れられると感染する！

それに多分……もうそろそろあいつが来る。」

「アイツ……？ 一体どういう事ですかツカサさん!？」

※この間も彼らは避け続けています

「コイツを倒すにはある力が必要なんだよ！」

そうして時間稼ぎをし続けていた

俺たちのもとへと漸く彼女が到着した。

「ツカサ君!!これを!!」

そう叫ぶ彼女……クリスが掲げる手には

マゼンタ色をした物体があった。

「良いタイミングだ！クリス！」

その物体……ネオディケイドライバーを目にした俺は

すまん！少しの間だけ持ち堪えてくれ！と

アシユ達へ伝え、急いで彼女の元へと走り

辿り着いた俺へクリスが話しかけてきた。

その顔はとても悲痛な表情で。

「ツカサ君、どうしても戦うのですね……。」

「ああ、それが俺のやるべき事だから。」

「でも……その力は私のせいで完全では無かった筈……。」

片手を胸に置きながら泣きそうな顔で言う

彼女の手の中のネオデイケイドドライバーには

通りすがりが持つオリジナルとは決定的な違いがあった。

それは他のライダー達の力を引き出す為に必要な

ライダーズ・クレストが

デイケイドのものも含め、刻まれていなかったのだ。

「それでも俺は後悔してないさ。」

お前を救う事が出来たから。」

「ツカサ君……。」

「だから俺は戦う。アイツとの約束のため。」

今度こそ、本当の仮面ライダーになる為に……！」

クリスの手にあったネオデイケイドドライバーを

腰に宛てがうと自動で装着された後

ライドブツカーから一枚のカードが飛び出した。

それは辛うじて輪郭が分かるものの  
絵柄や名前が消え失せたカードだった。

「やっぱり駄目か……。だけど！」

俺はそのカードを仕舞うとライドブツカーから  
1枚のカードを取り出しドライバーへ装填した。

そして戦場へと高らかに響く音声。

ATTACK RIDE : SLASH

「お前から待たせたな……ここからは俺に任せろ！」

そうして俺はスライムが変貌した

バグスターユニオンへと立ち向かっていった。